



令和4年4月1日

報道機関 各位

東北大学大学院歯学研究科

COVID-19の情報を得るために利用した情報源によって 予防行動の遵守が異なっていた

【研究のポイント】

- COVID-19 に対する 4 種類の予防行動(「マスク着用」・「部屋の換気」・「ソーシャルディスタンス」・「人混みを避ける」)の遵守と人物・機関・メディアといった情報源の利用との関連を調査した。
- 「医療従事者」・「専門家」・「政府・自治体」・「Twitter」・「ネットニュース」・「テレビ(ニュース)」から情報を得ていた人では、そうでない人と比較して、4 種類中 2 種類以上の予防行動で遵守している割合が高かった(図 1)。
- 利用している情報源によって、予防行動への遵守の割合が異なっていたが、テレビや SNS、ネットニュースなどのメディアを通じた適切な情報提供は COVID-19 予防において重要な役割を果たしていると考えられる。

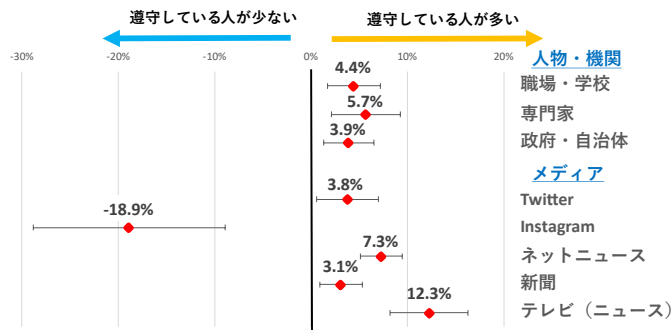
【研究概要】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下にあって、人々の予防行動が適切さを欠くのは誤った情報のせいなのではという危惧がありました。東北大学大学院歯学研究科の草間太郎助教らのグループは、COVID-19 に関する情報源の種類と人々の予防行動との関連を調べました。

Web 調査により、20~79 歳までの男女 18,151 人に対して 2020 年 8~9 月と 2021 年 2 月の 2 回、調査を実施しました。COVID-19 の予防行動として、「マスク着用」・「部屋の換気」・「ソーシャルディスタンス」・「人混みを避ける」の遵守の状況、COVID-19 に関する情報を得るために利用している情報源として、人物・機関・メディアなどの情報源 20 種類の利用状況を調査しました。2020 年時点での各予防行動を遵守している人の割合は、マスク着用:86.2%、部屋の換気:46.9%、ソーシャルディスタンス:45.4%、人混みを避ける:62.6%でした。4 種類の予防行動中 2 種類以上で遵守割合が高いことと関連していた情報源は、「医療従事者」・「専門家」・「政府・自治体」・「Twitter」・「ネットニュース」・「テレビ(ニュース)」でした。すべての予防行動に関連している情報源はありませんでしたが、メディア等を通じた情報提供が予防行動の遵守に貢献している可能性が示唆されました。

本研究成果は 2022 年 3 月 13 日に国際医学雑誌 *Healthcare* に電子版が掲載されました。

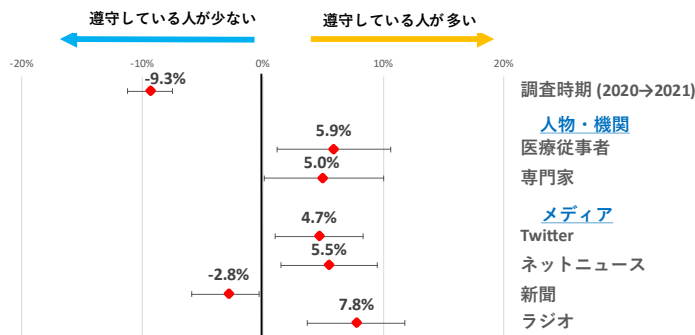
マスクの着用



利用している情報源

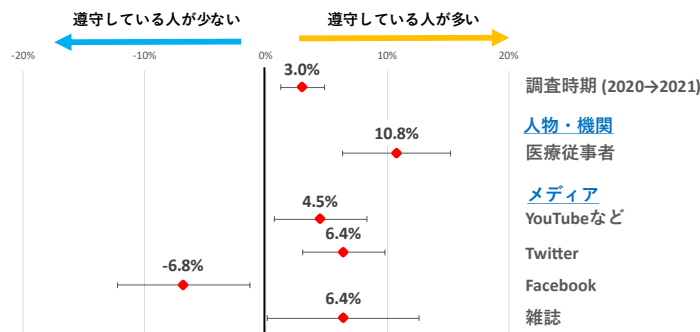
個人の特性と他の情報源の利用を考慮した分析の結果、多くの情報源でCOVID-19の予防行動の遵守との正の関連が観察された。特に「医療従事者」・「専門家」・「政府・自治体」・「Twitter」・「ネットニュース」・「テレビ (ニュース)」は複数の予防行動の遵守との関連がみられた。

部屋の換気



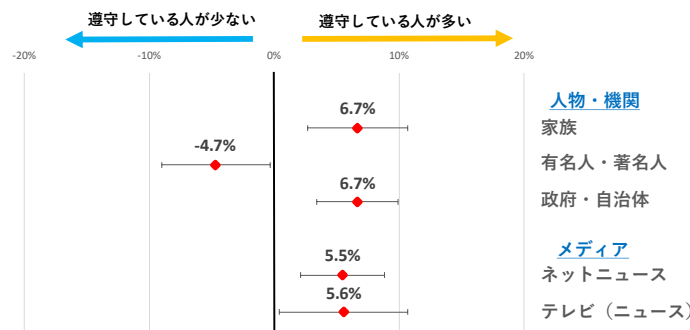
利用している情報源

ソーシャルディスタンス



利用している情報源

人混みを避ける



利用している情報源

図1. 各情報源の利用の有無と予防行動遵守割合との関連 (n=18, 151)
 ※解析結果のうち、統計学的に有意な変数の値のみ抜粋 (p<0.05)。

【研究の背景】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の予防では、マスクの着用・換気・ソーシャルディスタンスなどの予防行動の遵守が依然として重要です。過去の研究では、予防行動の遵守に対して、メディアなどの情報源の利用が影響することが示唆されてきました。しかし、COVID-19に対する予防行動について、細かな情報源の分類を用いて、複数の予防行動との関連を明らかにした研究はほとんどありませんでした。

本研究では、COVID-19に対する4種類の予防行動(「マスク着用」・「部屋の換気」・「ソーシャルディスタンス」・「人混みを避ける」)について20種類の情報源の利用との関連を経時的な変化を考慮して明らかにすることを目的としました。

【対象と方法】

本研究は20～79歳の男女を対象としたWeb調査を用いて行った縦断研究です。対象者は「日本における新型コロナウイルス問題による社会・健康格差評価研究(JACSIS研究;<https://jacsis-study.jp/>)」の2020年8 - 9月調査に参加した人のうち、「日本における社会と新型タバコに関するインターネット調査(JASTIS;<https://jastis-study.jp/>)」の2021年2月調査にも継続して参加した人です。結果変数として2020年・2021年調査時点での4種類のCOVID-19に対する予防行動(「マスク着用」・「部屋の換気」・「ソーシャルディスタンス」・「人混みを避ける」)の遵守の状況を用い、予測変数として、2020年時点での人物・機関ベースの情報源(政府や医療者など)・メディアベースの情報源(テレビやSNSなど)の利用及び調査時期(2020年/2021年)を用いました。共変量は性別・年齢・所得・学歴・世帯人数・ヘルスリテラシーです。分析は、一般化推定方程式を用いて、共変量を調整したうえで、各情報源の利用の有無によって、各予防行動を遵守している人の割合が何%異なるかを95%信頼区間とともに算出しました。

【結果】

対象者18,151人の平均年齢は51.7歳(SD=15.9)、男性が51.3%でした。2020年・2021年調査時の各予防行動を遵守している人の割合を図2に示します。また、各情報源を利用している人の割合については図3に示します。一般化推定方程式による分析の結果、個人の特性による影響を除外した上で、2つ以上の予防行動で遵守している人の割合が高いことと関連していた情報源は「医療従事者」・「専門家」・「政府・自治体」・「Twitter」・「ネットニュース」・「テレビ(ニュース)」でした($p<0.05$)(図1)。

【結論】

本研究から特定の情報源を利用していることが、COVID-19に対する予防行動を遵守していることと関連していました。機関やメディア等を通じた情報の提供が予防行動の遵守に重要な役割を果たしていたと考えられます。一方、4種類すべての予防行動と関連していた情報源もなかったことから、提供している情報の内容が包括的ではなく、情報源の種類によって提供していた内容に「ムラ」があった可能性があります。

【本研究の意義】

人物や機関・メディアによる情報の提供はCOVID-19に対する予防行動の遵守に対して重要な役割を果たしていた可能性があります。しかし、これらの情報源を利用していない人が一定数いることや、提供された情報に有益な情報が含まれていないことが、予防行動の遵守の低下につながる可能性もあります。COVID-19に関して、すべての人々に有益な情報が届くようなマルチチャネルによる情報の提供体制の構築が重要だと考えられます。

【出版論文】

Kusama T, Kiuchi S, Takeuchi K, Ikeda T, Nakazawa N, Kinugawa A, Osaka K, Tabuchi T. 2022. Information Usage and Compliance with Preventive Behaviors for COVID-19: A Longitudinal Study with Data from the JACSIS 2020/JASTIS 2021. *Healthcare*. 10(3). doi:10.3390/healthcare10030521.

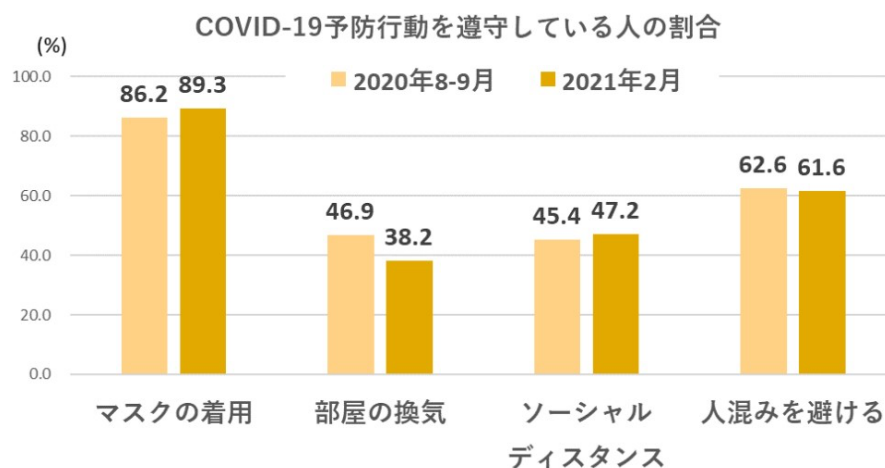


図 2. COVID-19 に対する各予防行動を遵守している人の割合

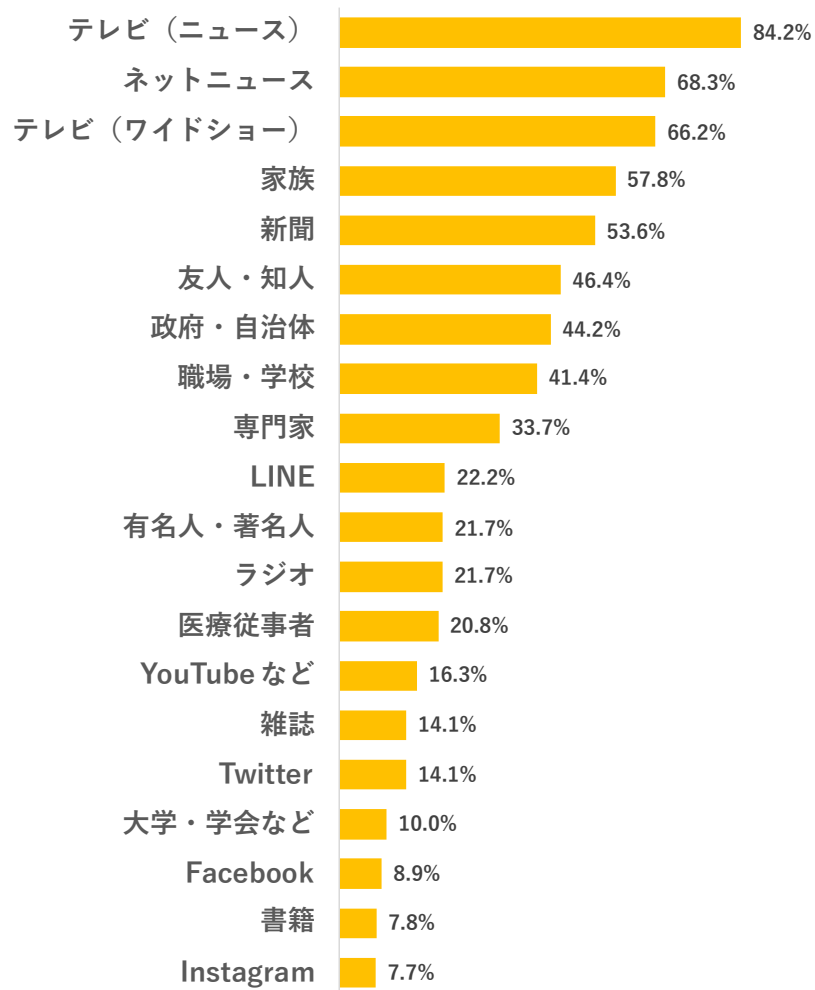


図 3. COVID-19 に関する情報を得るために利用している情報源の割合 (n=18,151) ※複数回答可

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学大学院歯学研究科

歯学イノベーションリエゾンセンター

地域展開部門

助教 草間太郎 (くさま たろう)

E-mail : taro.kusama.a2@tohoku.ac.jp

(報道に関すること)

東北大学大学院歯学研究科広報室

電話: 022-717-8260

E-mail: den-koho@grp.tohoku.ac.jp